

りゅうがんどはいじ

玉名の遺跡
シリーズ⑩

立願寺廃寺

玉名市立願寺塔尾所在

【お問い合わせ】

玉名市教育委員会
文化課文化財係

TEL:0968-75-1136
bunka@city.tamana.lg.jp



玉名郡衙関連遺跡

西の都・大宰府とのつながり

奈良時代、肥後の国・熊本は西海道を統括する大宰府の管轄下にあり、各地域に郡衙（役所）が置かれました。現在の立願寺一帯には、玉名郡衙があったと考えられ、郡家、郡倉と郡寺である立願寺廃寺がありました。しかし、立願寺とは大字名であり、創建当初の寺号はわかりません。

鬼瓦と建物跡

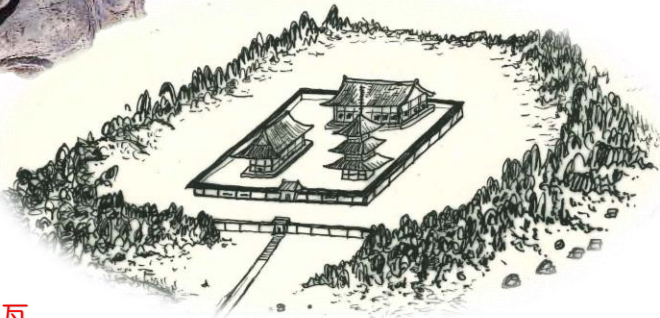
～大宰府と同じ“にらみ”をきかせる鬼瓦～



立願寺廃寺出土の鬼瓦

昭和29年、玉名高校考古学部による発掘調査によって「塔尾」という小字名や礎石と瓦の散布状況などから古代寺院の存在が想定されました。

平成2年の市史編纂事業に伴う調査では、7～8世紀代の掘立柱建物跡などが確認されています。瓦が多量に出土していますが、その種類が多く、7型式もあります。鬼瓦は大宰府政庁跡のものと類似し、鬼面文軒丸瓦は独特のもので、九州では類例がなく極めて珍しい瓦です。



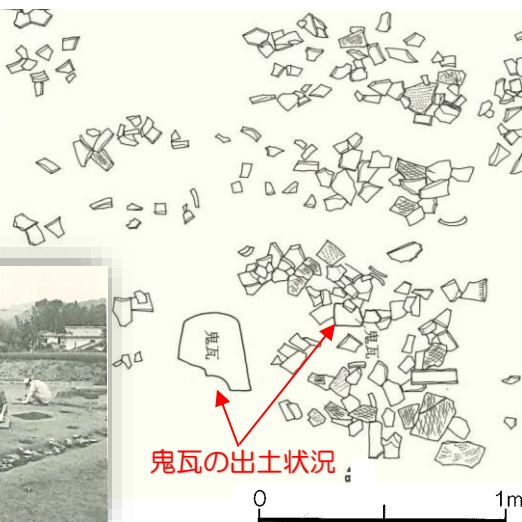
立願寺廃寺の想像図



鬼面文軒丸瓦と瓦葺きの復元



平成4年度の調査で検出された建物跡



鬼瓦の出土状況



平成4年度の調査状況

寺院は、出土した遺物から7世紀末から8世紀中頃にかけて造営されたとみられますが、数度の建て替えがあり、礎石建物跡が出土していないため、全体的な配置は不明確です。

■近年の発掘調査から

～謎多き、立願寺廃寺の実態とは？～



出土した多量の瓦



掘立柱建物跡



中世の土坑に集められた礎石

▲平成 13 年度の市道建設に伴う発掘調査では、寺院の建物跡とみられる柱穴や多量の瓦のほか、中世の土坑に集められた礎石が出土しています。中世に何らかの整地が行われ、礎石の建物跡は残っていない可能性があります。



出土した礎石（花崗岩製）

これらの礎石は、円形の柱座が造り出しております。

出土した礎石は現在、玉名市立歴史博物館こころピアの北側に移設し、野外展示されていますので常時見学できます。（※配置は模擬復元）



“石天神” ▶

寺院跡付近には塔の心礎ともいわれている礎石が祠に祀られています（地図参照）。



立願寺廃寺の瓦



単弁八弁蓮華文軒丸瓦



重弧文軒平瓦



老司式軒丸瓦

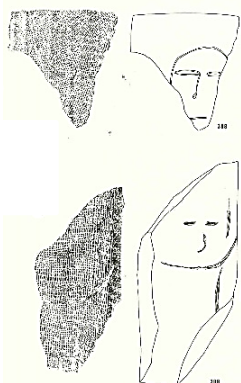


扁行唐草文軒平瓦



鬼面文軒丸瓦（復元）

※7 型式のうち一部です。



瓦に刻まれた人物像

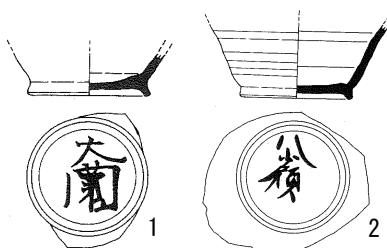
僧の顔か？

この鬼面文瓦は、独特のもので、九州でも他に例がないんじゃない。

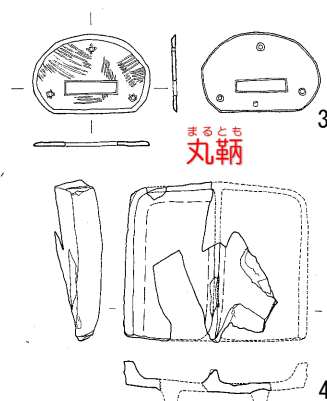
他にも多量の須恵器（円面硯）や青銅製皿、釘が出土し、周辺の立願寺大塚遺跡や柳町遺跡から、青銅製の丸鞘（ベルトの飾り）、墨書土器も出土しています。

■役人の存在を示す遺物

（1,3 柳町遺跡 2,4 立願寺大塚遺跡）
※熊本県教育委員会各報告書より抜粋



墨書土器



まるこも丸鞘

風字硯